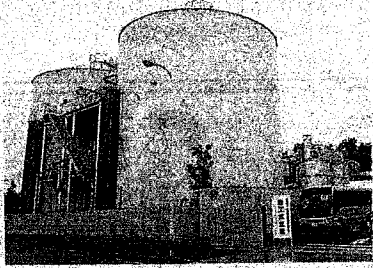


燃料源は食品ごみ バイオガス発電 羽村に施設完成

食品ごみを燃料源とするバイオガス発電所が羽村市に完成し、9日、落成式が行われた。再生可能エネルギー事業のアーキアエナジー(港区)が建設したもので、10月ごろからの発電開始を目指す。バイオガス発電所は都内では大田区に2017年に完成しており、2例目という。

発電所は、1千坪の敷地内に「発酵槽」と呼ばれるタンクや排水処理設備、発電設備などがある。総事業費34億円余。都内外の食品工場で出た廃棄物を分別処理して発酵させ、生じるメタンガスを使って発電させる。1日約80トンの廃棄物の



完成したバイオガス発電所。正面のタンクで食品廃棄物が発酵され、燃料源のメタンガスが生まれる。羽村市緑ヶ丘3丁目

処理ができ、年間発電量は770万キロワット時。約2100世帯分の電力を供給できる。

今月中に都へ産業廃棄物処分量の申請を行い、許可を待って操業を始める。アーキアエナジーの植田徹也社長は「地球環境とともに、地域に長く貢献できるように、施設にしたい」と語った。